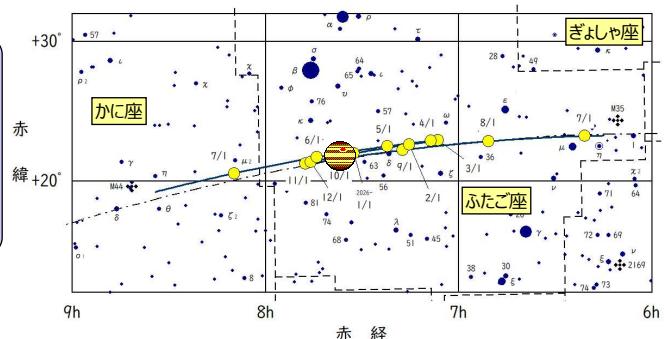


木星面近況 (2025年12月)

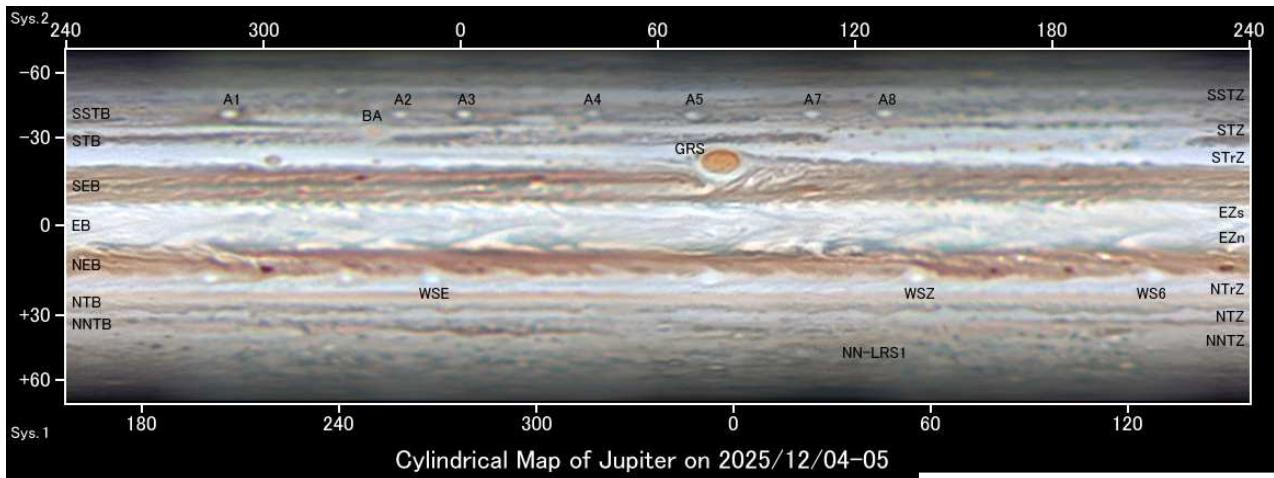
堀川 邦昭 (Kuniaki Horikawa)

2025-26シーズン (2025-26 Apparition)

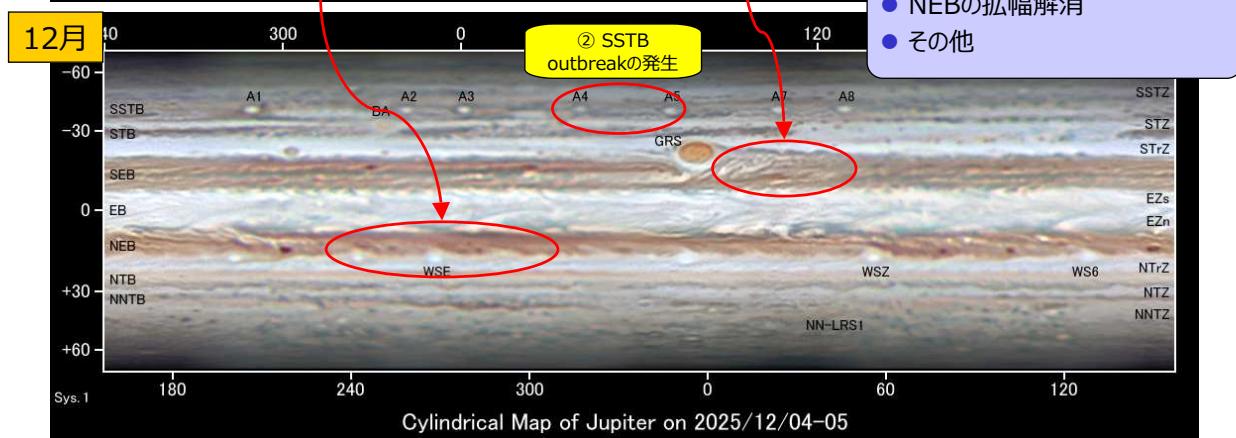
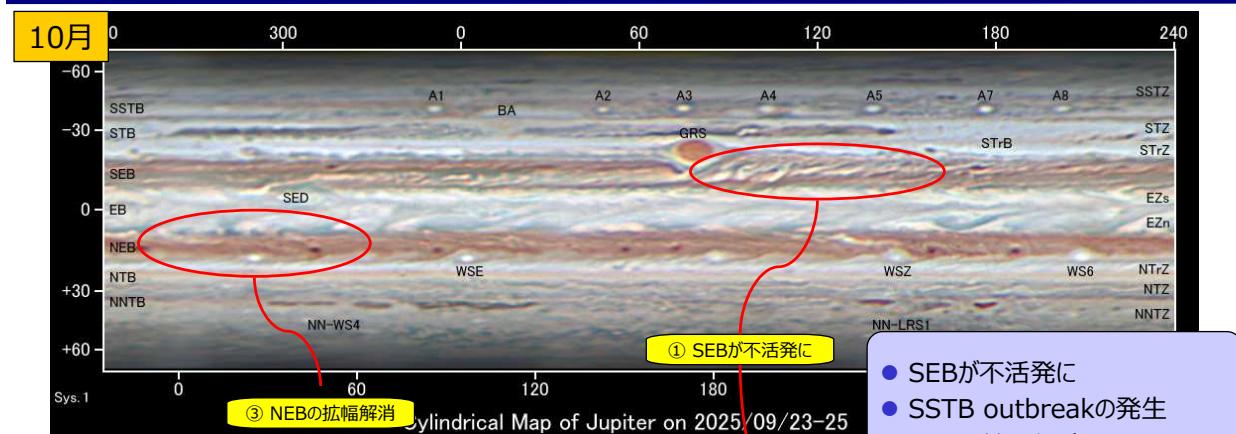
ふたご座	合	2025年 6月24日
赤緯 22°	西矩	10月17日
高度 77°	衝	2026年 1月10日
視直径 46秒	東矩	4月 5日
	合	7月29日



12/4～5の全面展開図

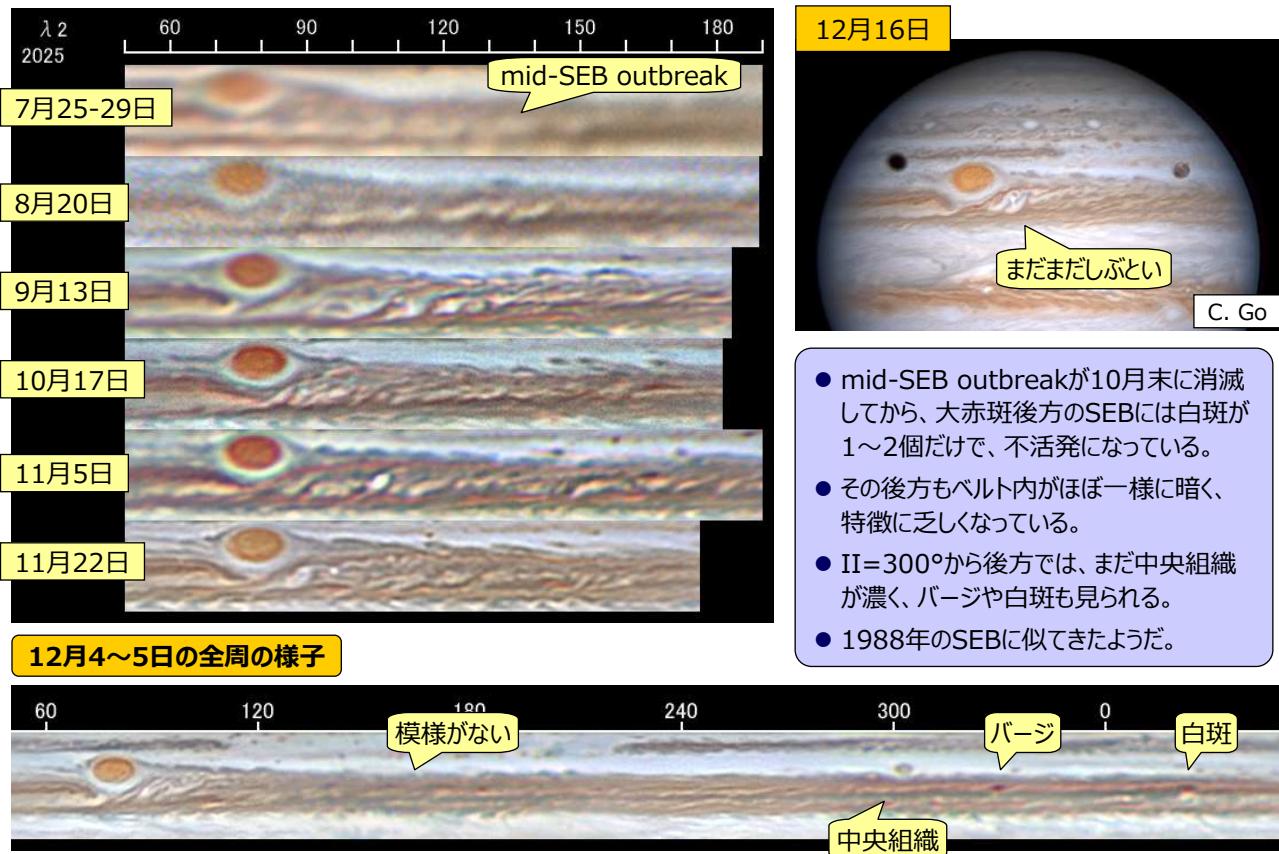


前回例会からの変化

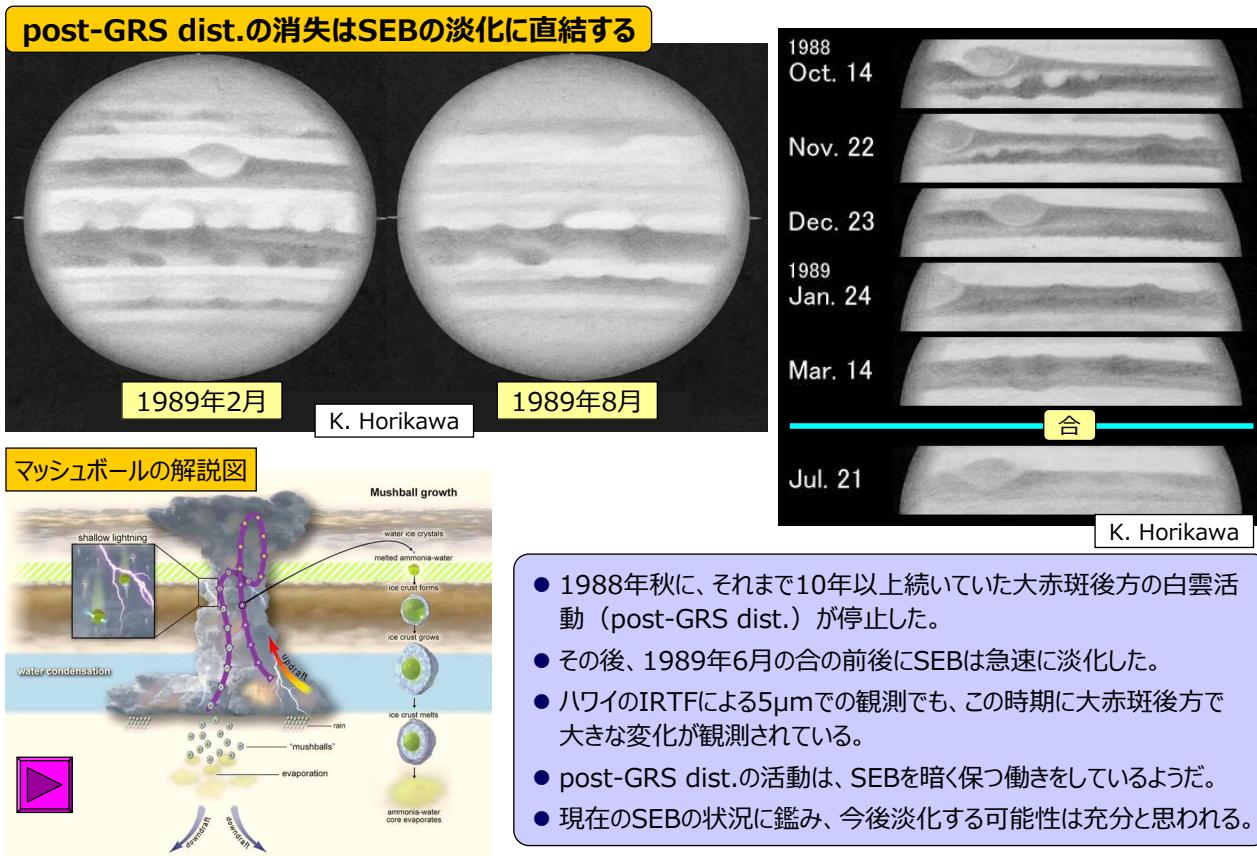


- SEBが不活発に
- SSTB outbreakの発生
- NEBの拡幅解消
- その他

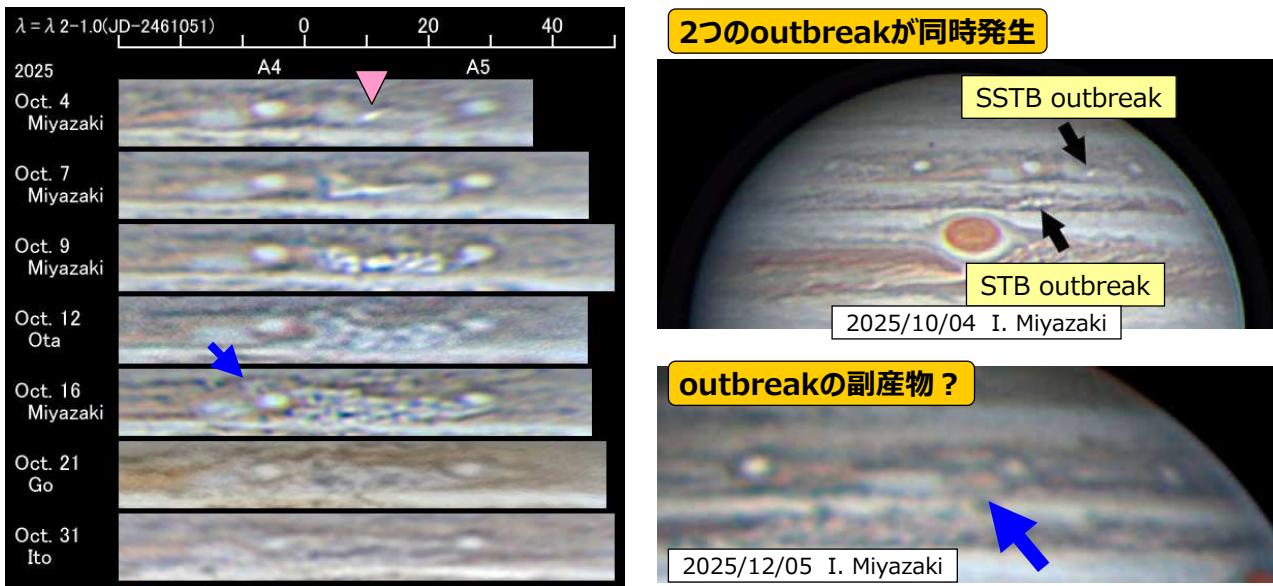
SEBが不活発な状態に



SEBは淡化するか！？

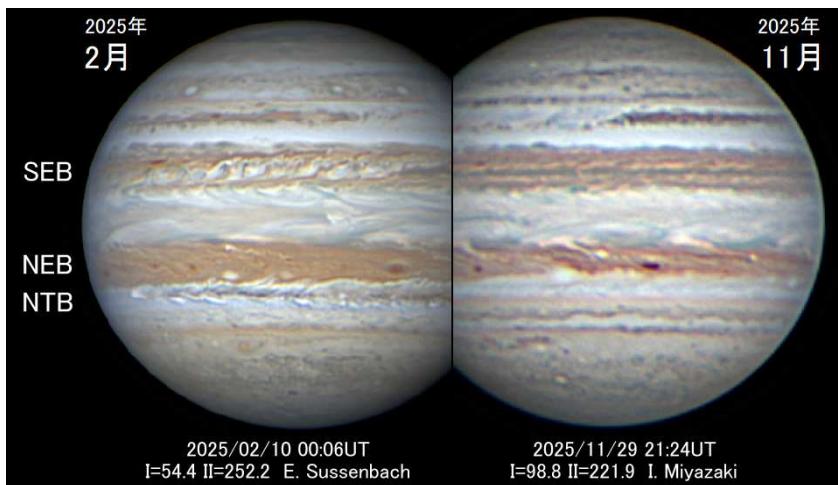


SSTBでoutbreakが発生

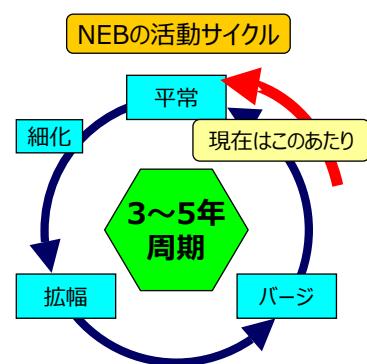


- 10月4日、SSTBのAWO、A4とA5の間にメタンブライトな白斑が出現、outbreakの活動が始まった。SSTBでのoutbreakは過去に例がないと思われる。
- 青い暗部を伴う乱れた白雲は、A4とA5の間に充満、10月半ばにはA4を越えて前方へ流出した。
- 活動はこの頃がピークで、その後はだいに衰え、outbreakの領域は暗いベルト尾一部になった。A4前方にあるCWOへの影響も見られなかったが、CWOとA4の間に薄茶色の白斑ができ、12月初めに少し目立つようになったのは、outbreakの副産物か？

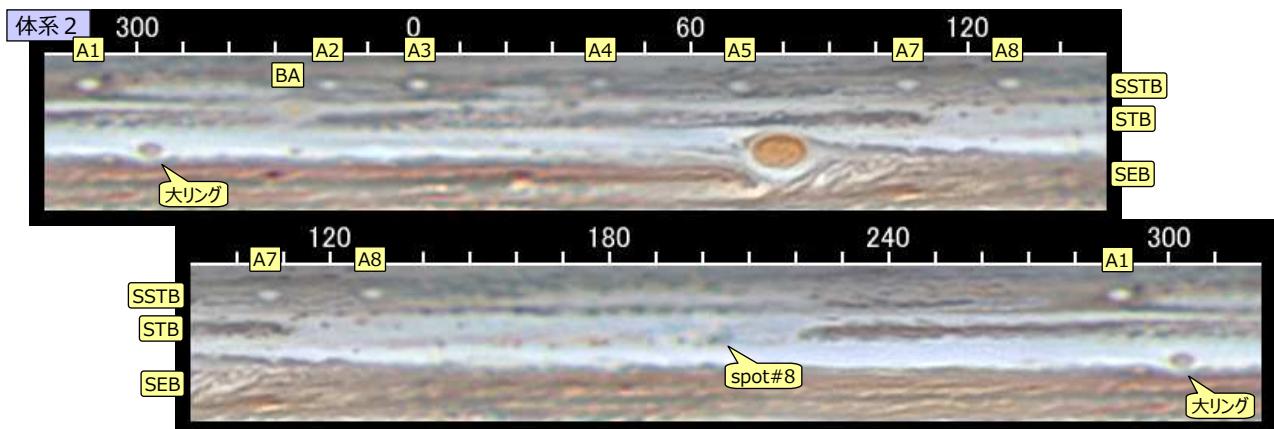
NEBの拡幅が解消



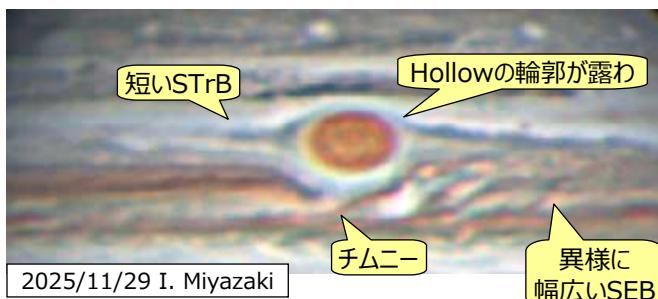
- NEBは北縁の淡化が進み、ほぼ全周で通常の太さに戻った。
- かつてベルト北部にあった白斑群はすべて明るいNTrZに露出したが、輝度があるので良く目立つ。現在8個存在、長命なWSZはII=140°付近にある。
- バージも8個程度認められる。II=100～300°のは、濃く目立つものが多い。
- ベルト内部では数か所でリフト活動が見られる。



その他の状況（南半球）

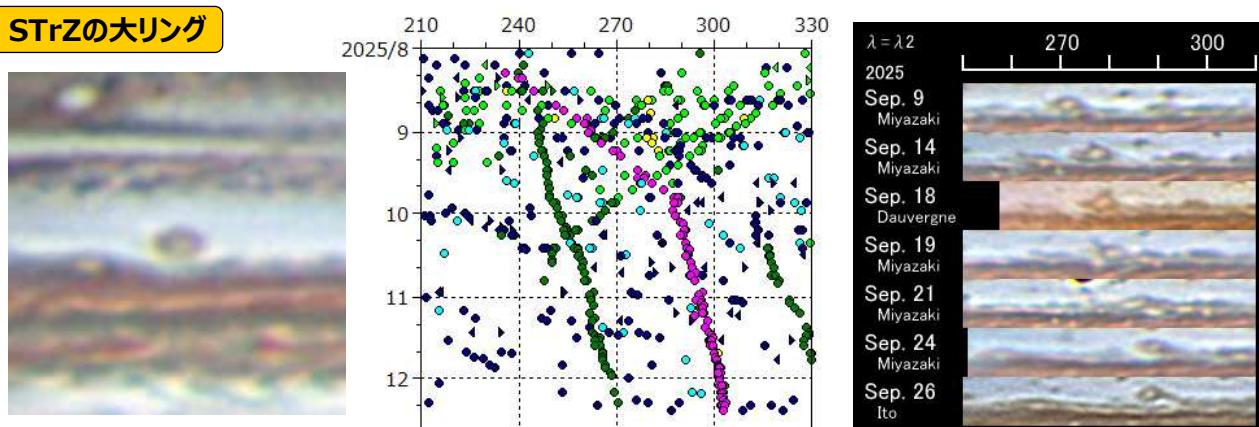


大赤斑と周囲の暗部

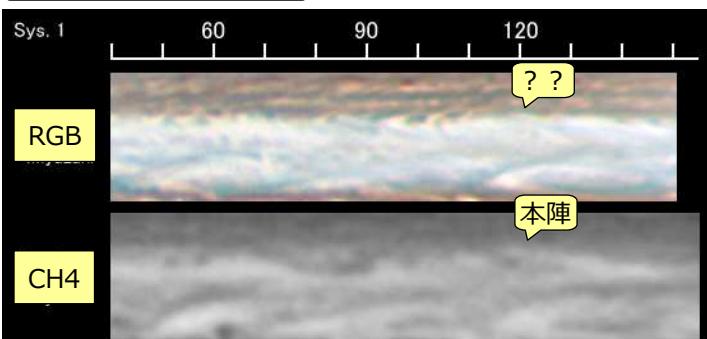


- 大赤斑はオレンジ色で明瞭。後方からSEBsがせりあがってアーチとなり、前方には短いISTrB、以前より濃くなつた。
- 昨シーズンより少し加速し、停滞ベース + 90日振動という動きに変わつた。現在はII=79°にある。
- 永続白斑BAはII=335°にあり、相変わらず不明瞭。STBのギャップとして目立つ。
- STB outbreakの明部は大赤斑前方にあるが、大きな活動は見られない。
- II=100°台で、SSTBnのジェット暗斑が多数。

その他の状況（南半球） – 続き

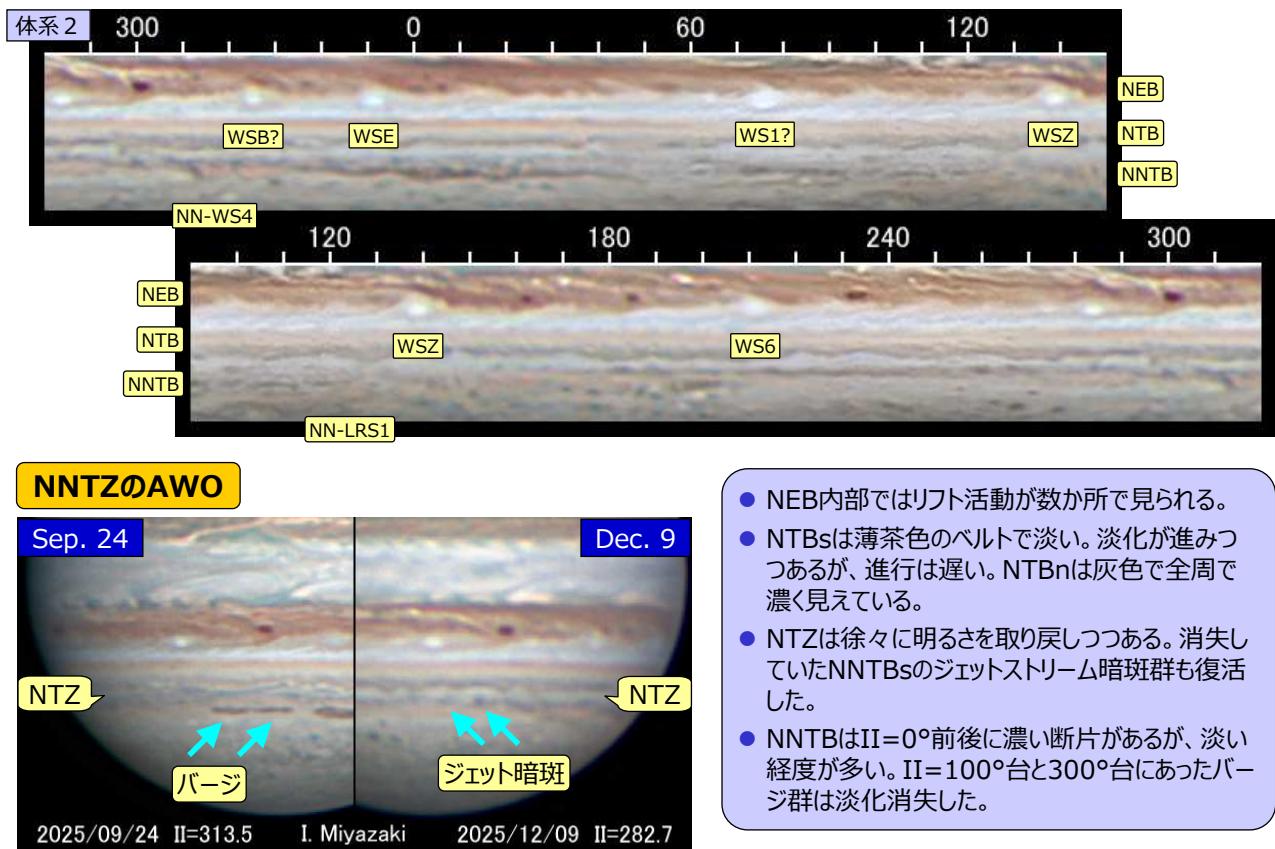


SED本陣はどこに？

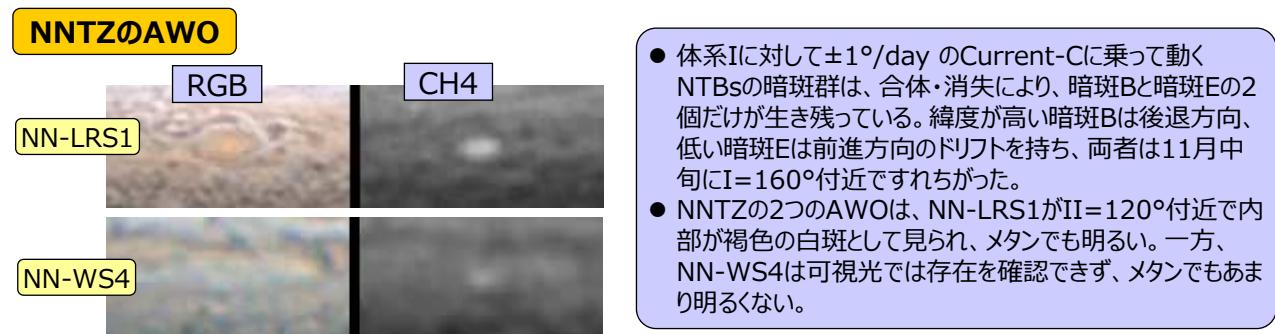
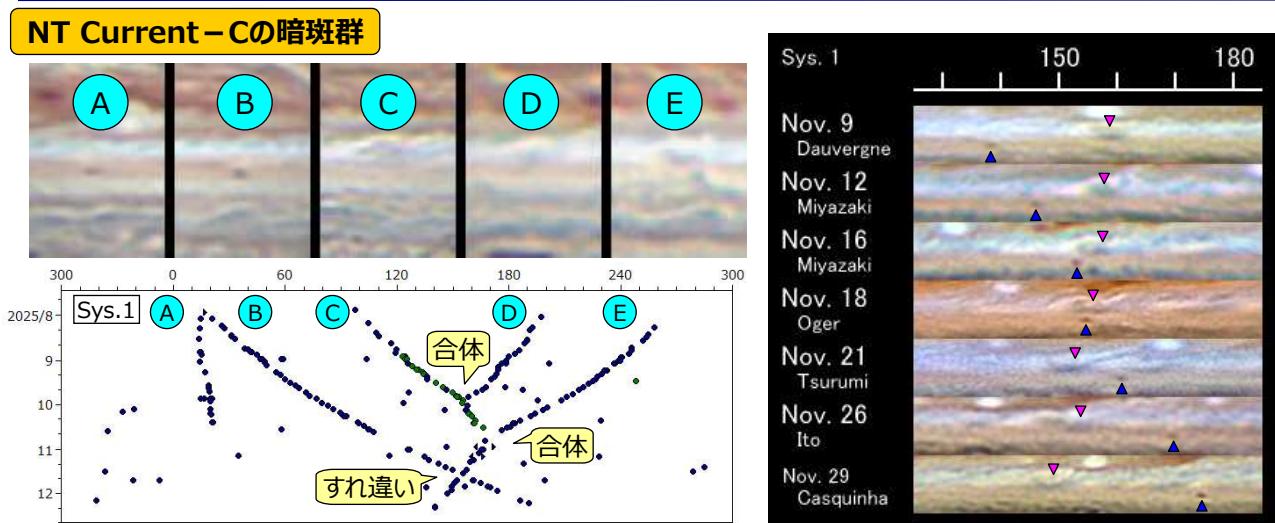


- II=300°のSTrZに大型のリングが良く目立つ。
- 元々はSEBsの後退リングだったが、9月下旬に南へシフトし、停滞・発達した。
- SEDは全周で活動を続いている。EZsは可視光では概ね明るく、SEBnの小突起が多数見られる程度だが、メタンバンドでは明暗模様が全周に広がつている。
- SED本陣は、I=120°付近にあると思われるが、可視光ではほとんどわからない。

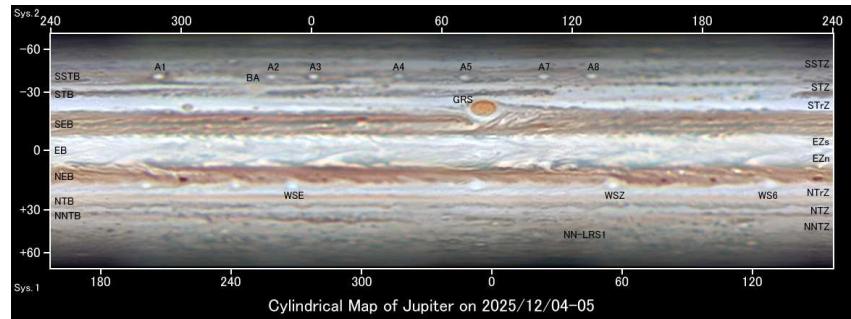
その他の状況（北半球）



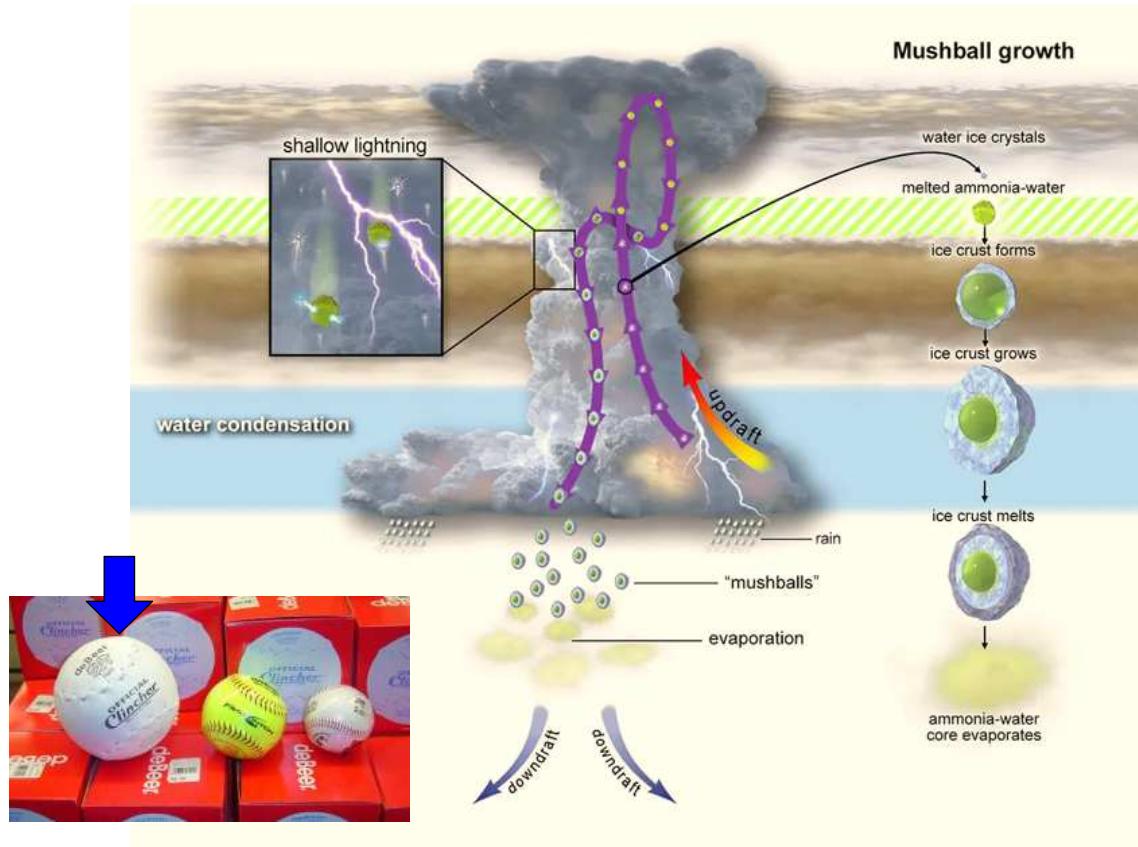
その他の状況（北半球） – 続き



参考資料



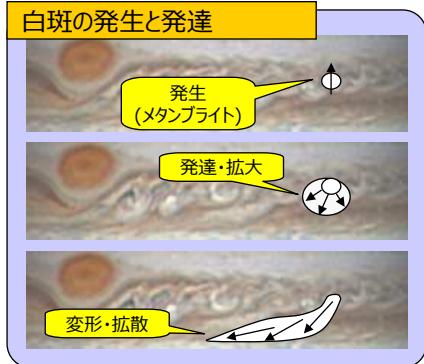
マッシュボール仮説



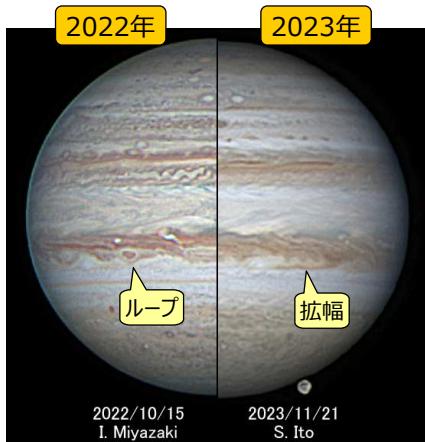
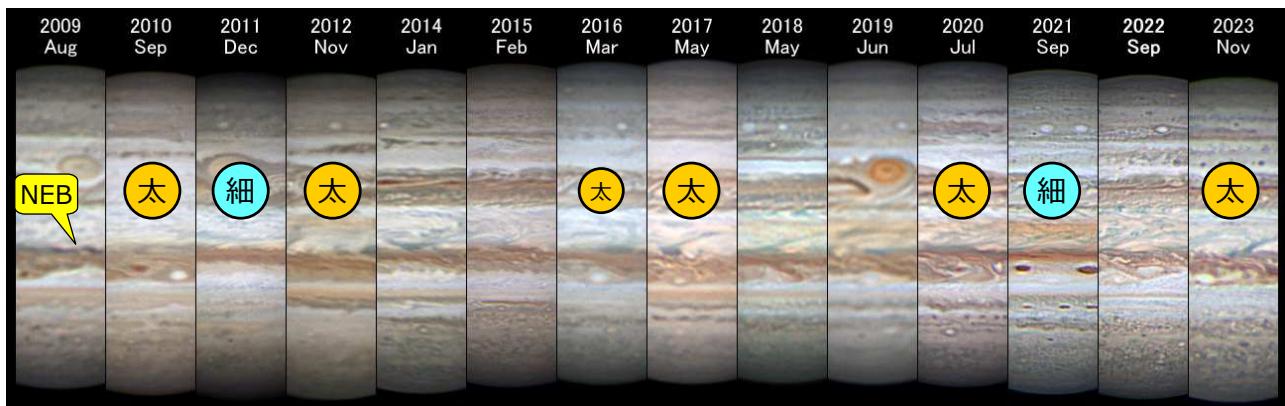
SEBで起こる各種の白雲活動



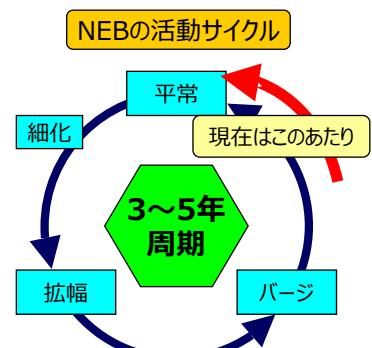
	特徴	発生場所	発生時期	白雲の供給源	発生間隔
post-GRS disturbance	RS後方の定常的な白雲領域	RS後方	SEB濃化時は常に存在	後端/同時多発	数ヶ月毎に消長
mid-SEB outbreak	SEB内部の突発的白雲活動	全周どこでも	SEB濃化安定時	後端(今回は複数)	数ヶ月～数年
SEB攪乱	淡化したSEBが濃化復活 3つの分枝活動(北・南・中央)	全周どこでも(リースの発生源)	SEB淡化時	二次的な攪乱あり(最高4つ)	3年/15年(1971年以降)

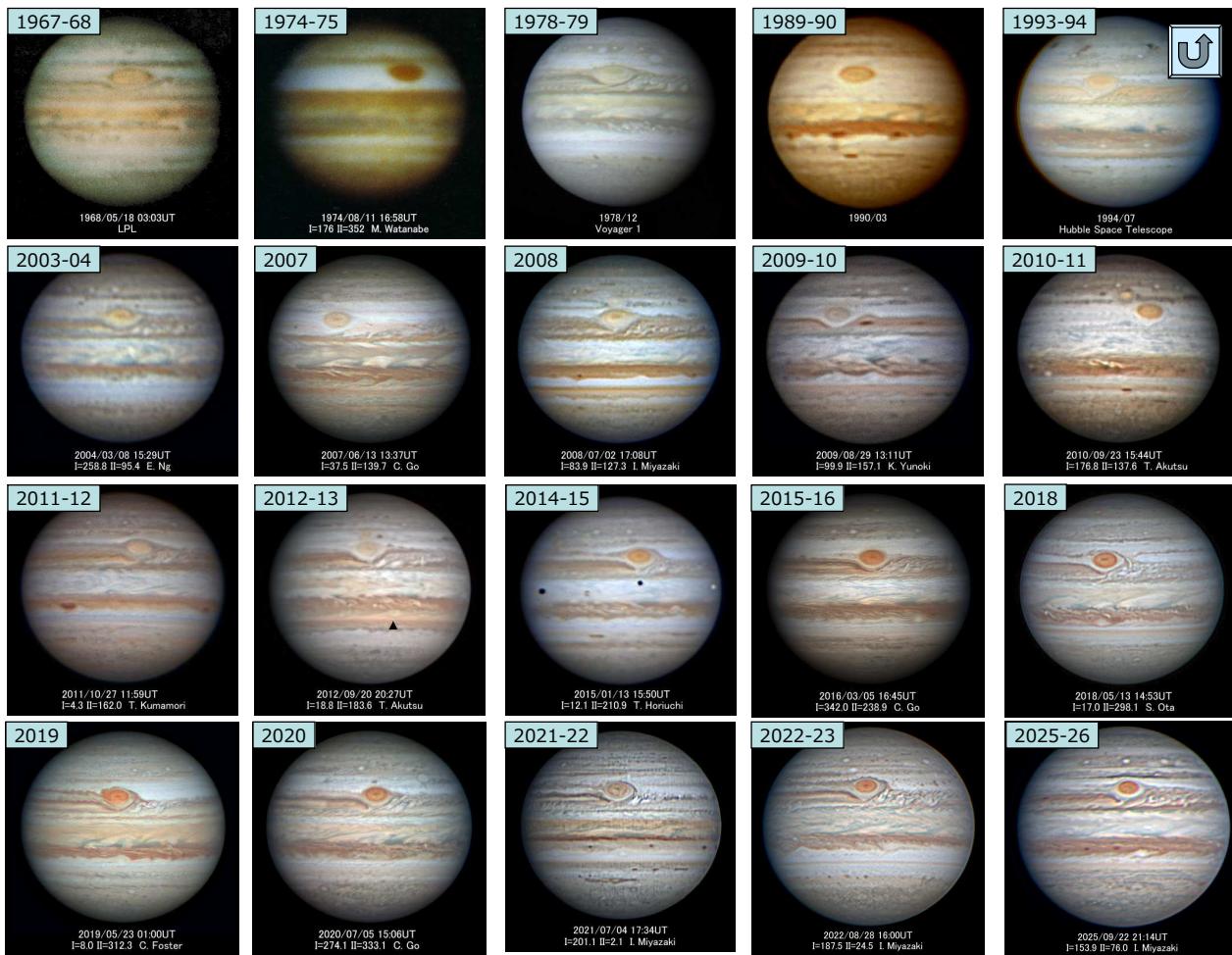


NEBの活動サイクル

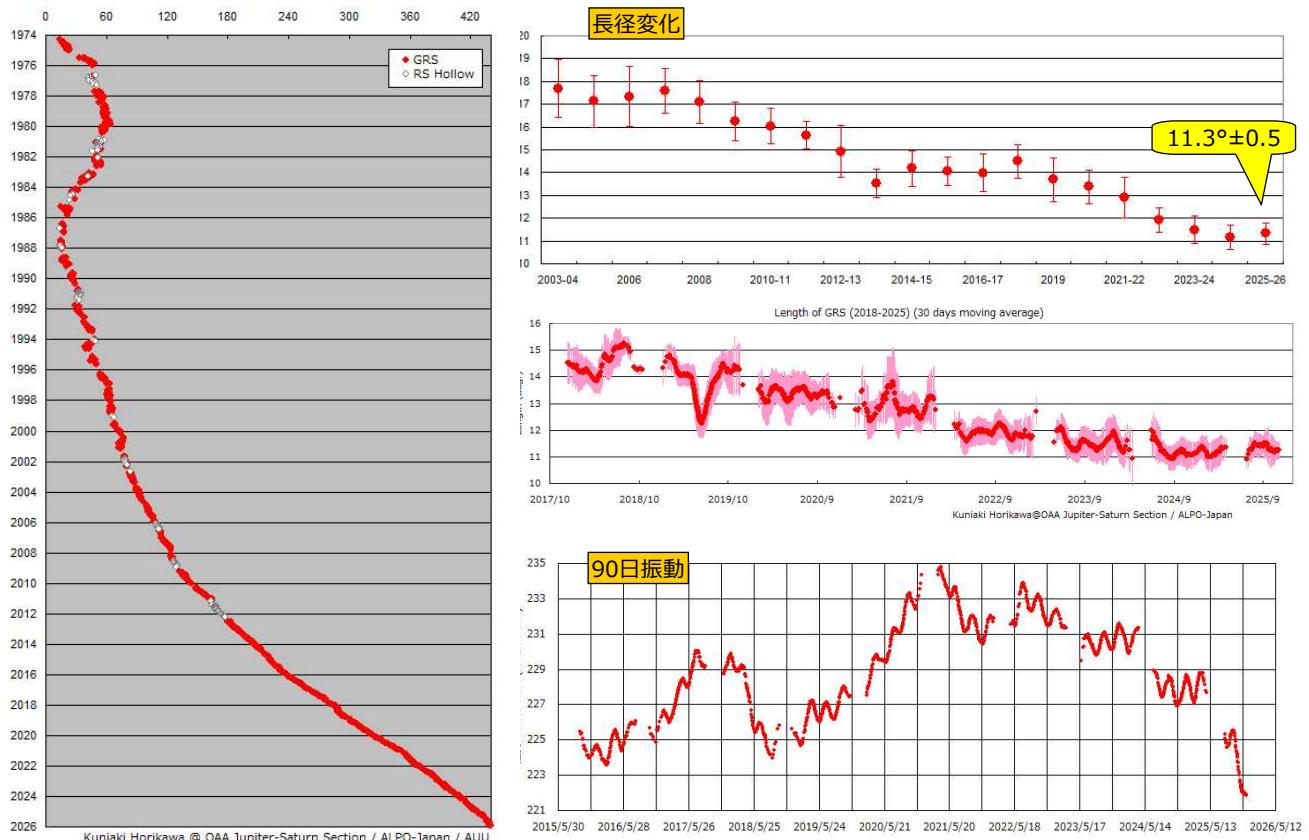


- NEBの太さは3～5年周期で変化する。ベルト幅の変化は、北縁の緯度変化が原因で、通常+17～18°だが、拡幅時には+20°まで広がる。
- 過去14年で5.5回の拡幅が発生した。
- 2011年と2021年には北縁だけでなく、中央部分も淡化して、ベルトが極めて細くなった。
- 2023年は年初から拡幅が始まったが、進行が遅く、全周に波及するまでに1年以上かかった。

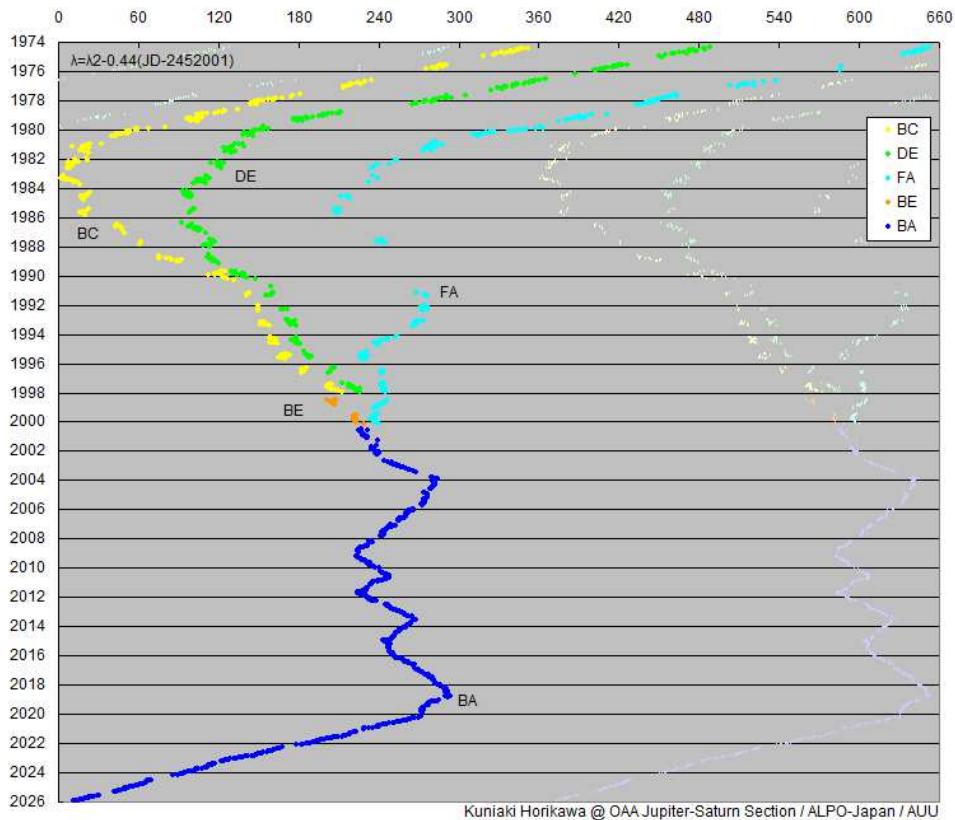




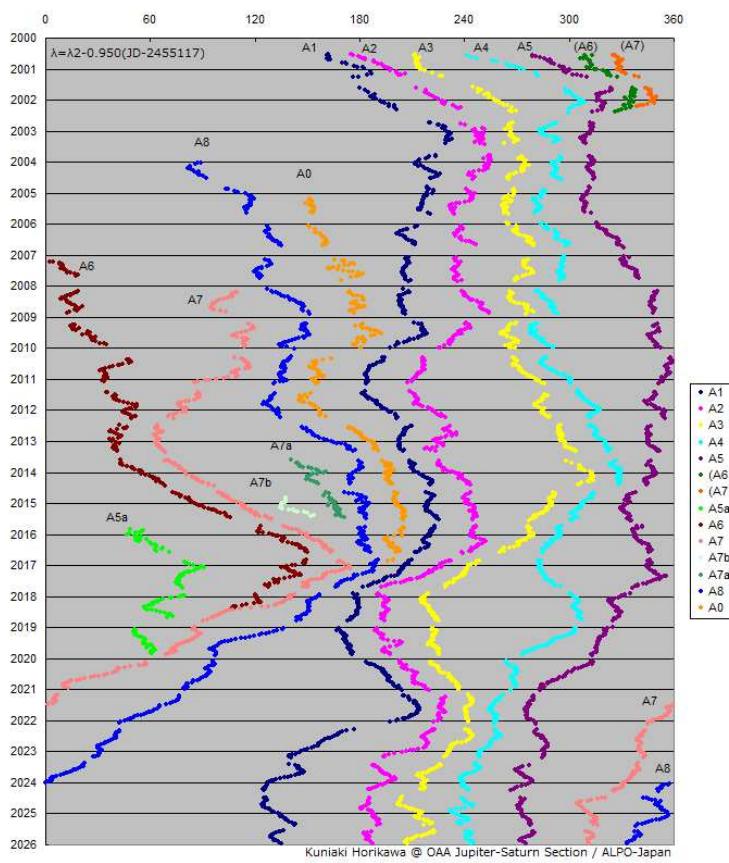
大赤斑の経度変化／サイズ／90日振動



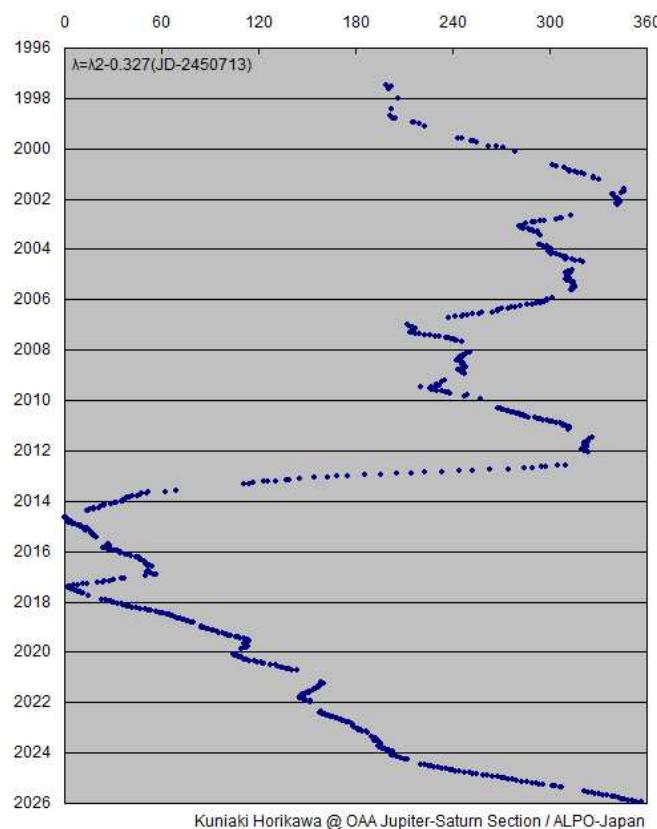
永續白斑 (STB White Ovals)



南南温帯縞 (SSTB) の高気圧的白斑 (AWO)



北熱帯 (NTrZ) の高気圧的白斑 (WSZ)



北北温帯 (NNTZ) の高気圧的白斑

